





**1. 佐潟周辺における希少植物の調査**

(1) 希少種の生育状況

① 保全対象群落の確認

- a. サデクサ: 湿地センター前で生育を確認。
- b. ヤナギトラノオ: 上潟一帯で多くの群落を確認。本年度は結実も多数確認できた。
- c. シラスゲ: 昨年よりさらに道路沿いの植物が削られて減少しているが、林内には多数確認。日照不足による衰退が見られる場合は、間伐などが必要となる。






**1. 佐潟周辺における希少植物の調査**

(1) 希少種の生育状況

② その他の希少種の生育状況

- a. オニバス: 春季の調査ではヨシ刈り地周辺で数個体確認されたが、夏季や秋季の調査では確認できなかった。
- b. ミズアオイ: 潟内での群落は確認できなかったが、水田の復元地や後述するエコトーンでの生育が見られた。
- c. スジヌマハリイ: エコトーン付近でのかつての生育地では確認できなかったが、上潟での生育を確認。
- d. ハンゲショウ: これまでと同様に生育が確認された。







**2. エコトーンでの保全活動**

昨年度より、佐潟で生息する希少生物保全のために自然生態園にエコトーンをつくり、希少植物の移植などを開始した。

デンジソウやミズアオイなどの希少種の繁殖が確認されたが、ウシガエルやアメリカザリガニなどの外来生物も多く、今後、どのように管理していくかの検討が必要であるほか、この場所を用いて水質改善のための実験なども検討している。



### 3. その他の植生について

#### (1) ハスの衰退について

今年度に引き続き、佐潟内でハスが見られない状況が確認された。ハスの衰退は、琵琶湖(2016年)を始め、各所で起きている。

その原因として、群落の発展と衰退という、植生の変遷で起こる正常な現象である可能性の他、生育に適した粘土層の消失やミンシツアカミガメ等による被害、水質悪化による影響などの関わりも否定できない。

浚渫土からは、多くの埋土種子やそれらの種子からの発芽も確認しているため、長期的にはそれほど心配ないと思われるが、隣接する御手洗潟などとの比較等を行い、原因の解明を行っていきたい。

#### (2) 御手洗潟の植生について

水質(COD、T-N)は佐潟(下潟)より悪いとされているが、ハスは繁茂している。ただし、湖面が見える場所が少なく、ゴミも多く確認された。

2019/7/26



### 4. 今後の活動について

#### (1) 潟普請との連携

佐潟の植生の復元や維持には、里潟を保全する上で潟普請活動が大変重要だと思われる。その他、自然観察や漁業利用、レンコンその他の収穫など、里潟保全につながる活動がさらに普及していくような工夫が必要だと考えられる。

6



### 4. 今後の活動について

#### (2) 水田の活用

一昨年前に復元された水田は、かつて積極的に行われた里潟利用の象徴である。コメの収穫だけでなく、水田という特殊環境を利用する生物とその生態系の重要性を認識し、普及啓発等にも役立てられる。

2019/7/26



### 4. 今後の活動について

#### (3) 環境全体との関連性

植生の変化は他生物や環境との関連が大きいため、鳥や昆虫、魚類等の専門家や関連する方々との連携を深め、総合的に里潟保全を行う必要がある。

8